

「原子力発電所の大気放出放射性物資モニタリングに関するトピック」

Mr. Wan-tae Kim (KINS,韓国)

大気放出放射性物質モニタリングの現状と今後あるべき姿に関する考察。大気放出放射性物質モニタリングについて問題点及び検討すべき事項は以下の通り。

- ・ 流出量 / サンプリング流量の比の範囲は 1000 ~ 100000 と大きく、サンプル量及び検出感度に影響を及ぼす。
- ・ 流出量 / サンプリング流量、捕集粒子量及び検出限界に不整合がある。
- ・ 放出経路が必要以上に長く、しかも分岐が多いことが、粒子のサンプリング影響を与える。
- ・ 古い施設の場合、サンプリング箇所、ノズル及び放出経路の情報がない。
- ・ サンプリング系全体を管理する手順が確立してない。
- ・ 内部サンプリング箇所の検査方法がない。

結論として、現在建設中の韓国の新設規原子力発電所には ANSI N13.1-1999 を適用する必要がある。又、現存の原子力施設についても他の施設との比較のため ANSI N13.1-1999 に従った追加検査が必要である。

